

**モモの開花期が平年より4日早まっています。
モモせん孔細菌病の春型枝病斑を確実にせん除しましょう！**

1 生育概況と今後の栽培管理

会津若松市のモモ「あかつき」は4月22日頃満開となりました。昨年よりも6日遅いですが、平年よりも4日早い満開となりました。

「会津地方主要果樹病害虫防除暦」により防除を実施している方は、第3回散布（落花直後、4月30日頃）から第7回散布（6月10日頃）の防除時期を暦よりも4～5日程度早めましょう。

2 モモせん孔細菌病防除対策

東北地方の1か月予報（仙台管区气象台4月14日発表）では、降水量は平年並の確率が40%、多い確率が30%と予想されています。5月にまとまった降雨がある場合、果実に感染する可能性があるので注意が必要です。

春型枝病斑は見つけしだい除去し、せん除は複数回行うなど耕種的防除を徹底しましょう！耕種的防除と薬剤防除を組み合わせ、病原菌の初期密度の低下を図りましょう。また、病原菌は降雨で拡散するため、防除対策は降雨前に確実に実施しましょう！

（1）耕種的な対策

- ・ 春型枝病斑は新梢葉や果実への伝染源となるため、ほ場内をよく観察し、疑わしい枝も含め徹底してせん除しましょう（図1）。



図1 春型枝病斑の発生（新梢葉の生育不良と枝の変色、令和4年4月13日撮影）
（写真提供：福島県害虫防除所）

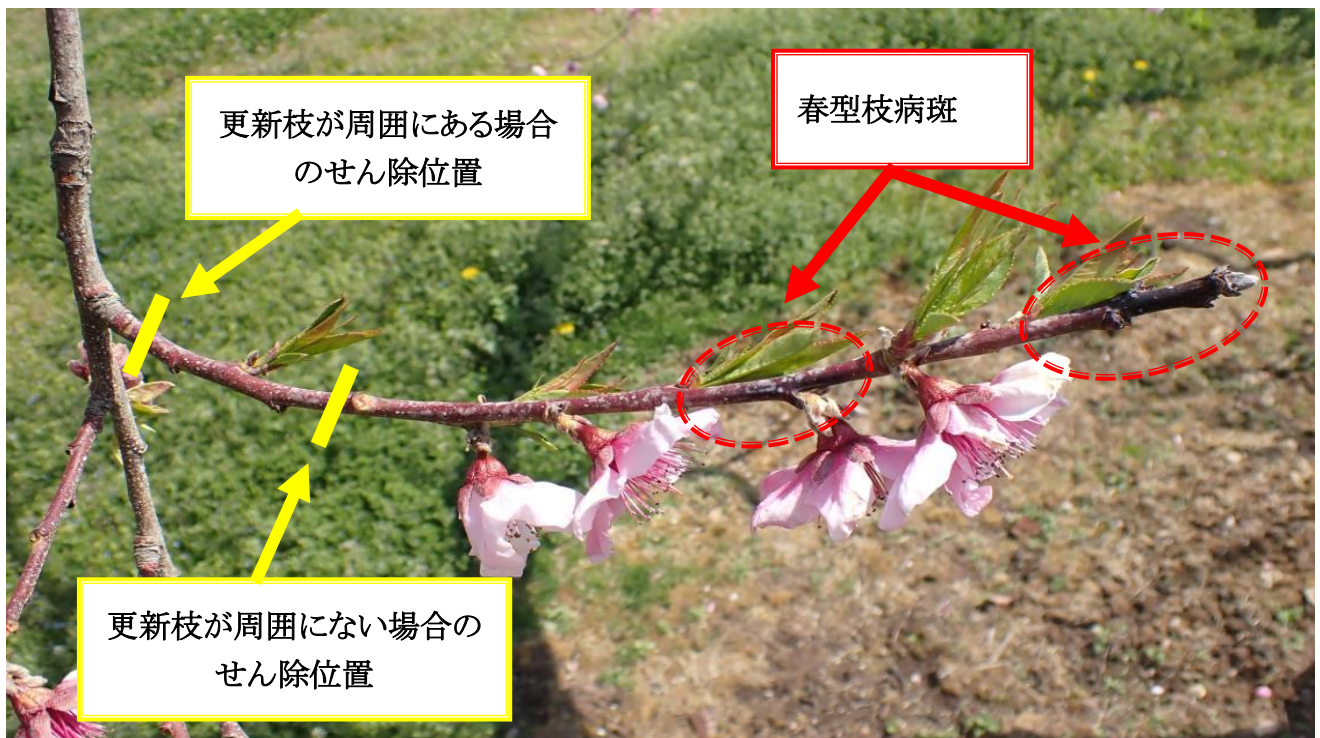


図2 春型枝病斑のせん除位置(写真提供:農業総合センター果樹研究所)

- ・春型枝病斑は7月頃まで長期間発生するため、せん除は定期的に複数回実施してください。
- ・春型枝病斑をせん除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部まで切り戻しましょう(図2)。
- ・樹冠上部の発病枝の取り残しは被害拡大につながるため、樹冠上部の発生を見逃さないようにしましょう。
- ・せん除した枝病斑は、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

(2) 薬剤防除

- ・薬剤は、落花期から7月まで10日ごとに散布しましょう。
- ・落花後に銅水和剤(クプロシールド)を使用する際は、薬害の発生を軽減するため、炭酸カルシウム水和剤(クレフノン 100倍)を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用しましょう。また、薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行きましょう。
- ・高温時の使用や連用は、薬害が発生しやすくなるおそれがあるため避けましょう。
- ・使用する薬剤は、使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。また、同一薬剤の連用は耐性菌出現のリスクが高まるので、薬剤はローテーションして防除を行ってください。

農薬を使用する際は、必ず最新の登録情報(使用時期、使用回数など)を確認し、適正使用を心掛けましょう。